



三重県公立小中学校教頭会
〒514-0003 津市桜橋2丁目142
教育文化会館別館3階
TEL 059 (228) 2340
FAX 059 (228) 2271
E-mail:mieheadt@hyper.ocn.ne.jp



5月10日（金）に「第59回三重県公立小中学校教頭会総会」におきまして、私を含め8名を新役員として選任していただきました。諸先輩方が築かれた歴史を深く感じながら、このような重責を務めさせていただくこととなり身の引き締まる思いがいたします。役員一同、精一杯務めさせていただきます。

さて、新型コロナウイルス感染症も5類感染症に移行されて、日常生活において一律に感染対策を求めなくなり、「4年ぶり」という言葉を数多く耳にしました。令和6年度は、学校教育においても来賓の方へ出席していただく形での入学式が開催されるようになってきました。GIGAスクール構想、デジタル教科書の本格導入などが一気に進められています。また、教職員の長時間労働が問題となる中、教頭の職務も多種多様となり、労働環境も大変厳しい状態が続いています。教育活動の精選は喫緊の課題です。これまでの前例踏襲を見直すきっかけにもなり、改めて学校経営について考えさせられるものでした。

このように、変化の激しい社会にあっては、求められる能力を定義していくことは容易ではありません。しかし、児童生徒が成長してこれから何十年の期間、社会を支える存在であり続けることを考えると、「現在」よりも「将来」

の社会循環を見渡していかなくてはなりません。私たちは、新学習指導要領の趣旨を踏まえながら、社会の変化を柔軟に受け止め、社会に開かれた教育課程の実現を目指すとともに、これまで以上に子どもたちにとって魅力ある学校づくりを推進していかなければなりません。

教育を巡る状況の変化が速度を増す中、本教頭会は、学び続ける姿勢と強いつながりをもって、活動していくことで「未来を切り拓く力」の育成と、「魅力ある学校づくり」ウェルビーイングの実現に向けて取り組んでいくことを目的としています。私たち教頭は、今後も持続可能な教育活動を創造し、教職員一人ひとりがいきいきと働くことができるよう、不易流行を考え、より適切な学校運営に取り組んでいかなければなりません。各中学校区、各地区での教頭と教頭のつながりを軸としながら、同じ苦労を理解しあえる教頭会の仲間と共に手を携え、組織として取り組んでいきましょう。管理職としての誇りと希望を胸に職務に精進し、教頭会の充実と発展のために力を合わせていくことこそが、子どもたちが輝く未来を手にするにつなげていくことを信じて疑いません。

最後になりますが、会員の皆様方のご支援とご協力をお願いし、就任にあたっての挨拶とさせていただきます。

令和6年度 県教頭会本部役員名

役 職	名 前	学 校 名	名 前	学 校 名
会 長	川 北 直 樹	津市立桃園小学校		
副 会 長	稲 森 文 一	伊賀市立上野東小学校		
副 会 長	谷 理 恵	津市立南が丘中学校	山 元 康 伊	桑名市立正和中学校
書 記	松 井 研 吾	松阪市立機殿小学校	中 野 敬 太	尾鷲市立輪内中学校
会 計	磯 部 亨	鈴鹿市立桜島小学校	小 林 孝 久	伊勢市立御園小学校

事務局 長	辻 幸 子
事務局 員	山 本 博

E-meil : mieheadt@hyper.ocn.ne.jp

ホームページ : <http://mie-kyotokai.jp>

令和6年度

研修会並びに第59回定期総会が開催されました

令和6年5月10日（金）、三重県総合文化センターにおいて第59回定期総会が開催されました。三重県内の教頭が一堂に会し、盛会に行われました。

議事・進行につきましても、議長をはじめ、旧役員の皆様のスムーズな運営により、予定通りに会が進行され、すべての議事が承認されました。

研修会では、楠井法律事務所 弁護士・社会福祉士の飯田真也さんによる「学校における危機管理について」の講演が行われました。

日頃から学校現場では、様々な問題に直面しており、保護者対応に悩む教員も増えています。不当な要求をしてくる保護者に対しての具体的な事案も交えながらご講演していただきました。法的責任が問われるのは、予測できたことに配



昨年度役員のみなさん ありがとうございます



今年度の役員です よろしくお願ひします
慮しなかった場合（配慮義務違反）であり、道義的責任とは区別する必要があることや秘密録音は、保護者の同意を得なくても問題ではないが、保護者も録音をしている可能性があることを念頭に置いておく必要があることも教えていただきました。

飯田さんのご講演から、私たちが教頭として保護者対応をする際に、説得や納得を目指す必要はなく、「教育的に正しいこと」を判断基準として、学校としての姿勢をぶれずに示すことを常に心に留めておきたいと感じました。

危機管理意識を高く持ち、未然防止に努めることは教頭の大事な役割ではありますが、有事の際には教職員がチームとなり、臨床心理士（スクールカウンセラー）、医師、弁護士などの専門家とも連携しながらピンチを乗り切っていきましょう。

令和6年度 県教頭会 専門部員名

◎部長 ○副部長 ◇本部

総務部	◎ 西塚 正博 川口 亜紀	○ 廣脇 正人	富田 直美	◇ 川北 直樹 ◇ 稲森 文一
研究部	◎ 野田 幸代 近澤 麻里	○ 疋田 哲也 寺谷 寿美	宮田 康弘 中岡 清	◇ 谷 理恵 ◇ 山元 康伊
調査部	◎ 矢田 佳希 長谷川 直哉	○ 小林 英輔 村田 恵理	伊藤 佳代子 曾和 良友	◇ 小林 孝久 ◇ 磯部 亨
広報部	◎ 奥村 健二 平生 勇	○ 田中 仁美	加納 博之	◇ 松井 研吾 ◇ 中野 敬太

令和6年度 郡市会長・県教頭会理事名

郡市名	会 長		理 事	
	名 前	学 校 名	名 前	学 校 名
桑名市・桑名郡	上 田 眞 人	日進小学校	宮 田 康 弘	立教小学校
いなべ市・員弁郡	西 塚 正 博	藤原中学校	西 塚 正 博	藤原中学校
四日市市(小)	中 本 旬 子	大谷台小学校	田 中 仁 美	常磐小学校
四日市市(中)	渡 辺 由 紀	西朝明中学校	加 納 博 之	桜 中 学 校
三重 郡	西 尾 奈 緒 子	千種小学校	小 林 英 輔	菰野中学校
鈴 鹿 市	松 田 眞	天栄中学校	伊 藤 佳 代 子	大木中学校
亀 山 市	川 嶋 英 司	関 中 学 校	近 澤 麻 里	川崎小学校
津 市 北	中 島 功 次	豊津小学校	野 田 幸 代	黒田小学校
津 市 中	田 中 俊 大	西が丘小学校	矢 田 佳 希	神戸小学校
津 市 南	東 山 順 子	八ツ山小学校	疋 田 哲 也	榊原小学校
松 阪 市	山 中 伸 一	山室山小学校	長谷川 直 哉	飯 高 中 学 校
多 気 郡	尾 上 佳 代 子	津田小学校	寺 谷 寿 美	勢 和 小 学 校
伊 勢 市	竹 田 圭	豊浜西小学校	平 生 勇	城 田 中 学 校
度 会 郡	福 井 幸 久	大紀中学校	村 田 恵 理	有 田 小 学 校
鳥 羽 市	千 草 義 輝	答志小学校	廣 脇 正 人	鳥 羽 小 学 校
志 摩 市	井 上 雅 嗣	東海小学校	中 岡 清	磯 部 小 学 校
伊 賀 市	石 井 康 晴	中瀬小学校	富 田 直 美	西 柘 植 小 学 校
名 張 市	山 本 優 子	美旗小学校	曾 和 良 友	箕 曲 小 学 校
紀 北	東 伴 哉	上里小学校	奥 村 健 二	西 小 学 校
紀 南	仲 森 久	木本中学校	川 口 亜 紀	阿 田 和 中 学 校

令和6年度 新任教頭名

4月1日現在 110名

地域	名 前	学 校 名	名 前	学 校 名	名 前	学 校 名
北	山元香織	大山東小	伊藤大祐	益世小	諏訪豪	伊曾島小
	安田水智	多度間小	宮前中	多度北小	石川英一	成徳中
勢	伊藤本	笠神塩泊	柴田享	富田央郷	川田重興	高花平小
	森本	浜山永小	高須井林	中四野小	後藤良介	楠川島小
	森岡	日大知興讓	中余川	下常竹	栗本健一	川笹津中
	山松	朝明原小	余川北	常竹朝	水谷朋太	羽野菰
	飯田	川越子小	橋伊東	稲朝生	早野元美	椿旭が丘小
	大魚	白長神野	金子寺邊	野寺邊	扇出口祐	井田川小
	古林	子子子子	小野	小野	赤坂達生	
	宮本	史紗				
津	奥伊西	上野小	成川佳大	村主小	池山浩隆	安濃小
	藤村本	芸濃立誠	山田川美	みさとの丘学園(前期)	池田有宏	雲出中
	岩梅谷	一身郊之	角谷喜彦	敬橋北	小林久美子	西橋内中
	若横	南誠大三	中林谷	立成杉山	高橋宜記	一志西中
松	近藤	第三野小	中井英幸	漕代小	鈴木史彦	豊田小
	尾谷	嬉佐宮	森川幸恵	上御糸小	山村裕実	日進小
南勢・志摩	廣脇直子	有上修大	中西明子	宮山小	下岡いづみ	東大淀小
	渡山橋中	修道宮勢	木村所山	二見生紀	久保拓也	南島西中
伊賀	南	新飛鳥小	大福間マミ	志摩海小	岩木野富美	神明島小
		嶺野方岡				
名張	鈴木佐知	すずらん台小	山本卓生	桔梗が丘小	白鷹久美子	南中
紀北	橋本美保	相賀賀田小	直江さゆり	赤羽中		
紀南	莊司千帆	新飛鳥小	大久保和歌子	木本小	坂口直矢	五郷小
	南大前	尾呂志学園	谷畑秀樹	井田小	廣増井直孝	成川野谷中

新しい風

110名の方が本年度新しく教頭として着任されました。フレッシュな声をお届けします。



トライ&エラーの 先に見える景色

桑名市立伊曾島小学校

諏訪 豪

13年前、初任者として赴任した伊曾島小学校に8年ぶりに戻ってきました。

4月からは教頭という立場のせいか「ここは学校仕事の特殊な場所だな。」と思いながら毎日を過ごしています。自分で決めて自分で選んだ道ではあるものの今もなお不安と焦りしがなく、その上、前任の教頭先生が残してくれた財産を何とか保持しようとするあまりの空回り、何から始めていいのかわからないことすらわからない毎日が続いています。まだまだ不安と焦り、緊張が解けない毎日を過ごす情けない教頭ですが、校長先生をはじめ職員室の先生方、事務職員さんや用務員さん支援さんやSHPさんなど伊曾島小学校で働く全ての方が一緒になって考えてくれたり作業をしてくれたり助けてもらっている毎日です。まずは、「いつもありがとうございます。」を伝えたいです。

さて、話が離れてしまいましたが自分はラグビーというスポーツが好きです。ラグビーの代名詞でもある「One for All・All for One（1人はみんなのために・みんなは1人のために）」を、いつもチーム運営のキーワードとして考えています。

チーム(All)が強くなるには、まずは個(One)が強くなるなくてはならない、その個(One)が自立して協力して行くことができればチーム(All)は必ず強くなっていくものだと思います。その思いを心に入れながら、まずは「チーム伊曾島」のみなさんに協力してもらいトライ&エラーを重ねながら自分自身の自立を高めていきたいと思っています。

挑戦した者にしか見えない景色をチーム全員で共有できる日が来るのを楽しみにそして、1日でも早く「チーム伊曾島」の力になれるように全力で毎日を過ごしていきたいです。

最後に、いつも支えてくださる校長先生や前任の教頭先生や先生方、保護者の方や地域の皆様すべての皆様に感謝しながら自分の選んだ道が正解だったと言えるように前進していきたいです。



子どもたちの 笑顔のために

いなべ市立笠間小学校

清水 智弘

小学校低学年の頃、大好きな教頭先生がいた。雨の日は小刀を持って図工室に行き、教頭先生と工作をしていた。最初は鉛筆削り。教頭先生に「鉛筆削りを使わなくても、機械で削ったように鉛筆が削れるよ」と言われ、何度も何度も鉛筆を削って教頭先生に見てもらった。「合



格！」と言ってもらえるのが嬉しかった。一番はまったのは竹とんぼ。親指の使い方、手の添え方、太い竹の割り方、軸を細く丸く削らないと竹とんぼがぶれて飛ばないことなど、様々なことを教えてもらった。小刀を使うことはほとんどないが、カッターナイフ等の刃物を扱う器用さが身につけているのはその当時に鍛えていただいたおかげである。図工室には、竹とんぼ作り用に割ってある孟宗竹が準備してあり、友だちと自由に作る事ができた。低学年が刃物を持って図工室に行き、勝手に竹とんぼを作っている…今思えば自由な時間である。

4月に教頭となり5月までの自分をふり返って見た時、目の前の仕事をどうにか終わらせなければ、期日までに提出しなければと、毎日バタバタとしていた。子どもたちの様子を見に行ったり、関わったりする時間もなかなかとれなかった。「教頭先生」と呼ばれることには慣れたものの、自分が大好きだった教頭先生のような存在には一朝一夕でなれるものではないということを感じた。「もっと～しなければ…」と焦る時もあったが、やれることを一つずつ取り組んでいくしかない。日々学び、自分自身を磨き、アップデートしながら、子どもたちと一緒に、職員と一緒に、よりよい学校をめざして取り組んでいきたい。

竹とんぼは実家の自分の部屋の引き出しにあった。「宝物」として、ちょっといいお菓子の箱に入れてあった。当時の自分のように子どもたちが笑顔になれるよう、自分なりのアプローチをしていきたい。



新しいスタート

四日市市立楠小学校

後藤 良介

4月1日、自分に教頭という仕事が務まるのかと、不安を抱きながら学校に向かいました。4月の業務の忙しさについて、先輩方から何度も聞いてはいましたが、現実には自分にとってそれ以上のものでした。

毎日、思いもかけないことが起こり、その対応に追われる日々が続くにつれて、「自分は突発的な業務に振り回されている」という受け身な考えを持つようになりました。しかし、自分の仕事を客観的に捉えられるようになった頃、この非日常的な事案への対応こそが、教頭の「通常業務」であることに気がきました。そして経験を重ねる中で、管理職という仕事に正面から向き合えるようになりました。

仕事を思うように進められなかった4月は、実行力の無さや、業務内容に対する見通しの甘さなど、自身の弱さを一つ一つ自覚させられる厳しい日々でした。しかし、校長先生をはじめ、周囲の方々の温かい支えもあり、これは自分を変えるための貴重な機会なのだと、気持ちを前向きに切り替えていくことができました。

自分だけで出来ないことは、一人で悩まず周りに協力を求めて解決する、そんな当たり前のことの良さを、この歳になって心から感じる事ができました。また、PTAの方々や地域の人々とかかわる中で、教育活動をこれまでとは違った視点で捉え直すことができました。まだまだ教頭職に十分な手ごたえを感じることはできませんが、マイナスからスタートした分、日々新しいことを学んでいくことに充実感や喜びを感じられるようになりました。

これからはもっと自分らしさを生かして教頭職に取り組み、子どもたちのために、一歩ずつプラスの方向に自分を成長させていけるよう、日々精進していききたいと思います。



職員室の担任

四日市市立朝明中学校

山本 正人

7年ぶりの学校現場に、不安と期待を抱きつつ、赴任先に向かいました。

振り返ってみると学校現場は、私が教諭として勤めていた頃から大きく変化していました。例えば、各教科等の資質・能力は三つの柱で整理され、指導と評価の一体化や「社会に開かれた教育課程」の実現の推進が図られるなど、学習指導要領の改訂がありました。また、新型コロナウイルス感染症の対応やGIGAスクール構想のもと1人1台端末の導入などもありました。

4月からの勤務は、学校現場でのこういった変化についていくことと、書類の提出や学校の施設管理等に向き合う日々となり、職員室の担任らしいことはほとんどできませんでした。また、初めてのことばかりで戸惑うことも多く、前任の教頭先生に教えていただいたり、校長先生の指示を仰いだり、周りの先生に支えていただいたりする毎日でした。不安になることもありましたが、職場のみなさんに支えていただきながら、業務をこなしている状況で、感謝ばかりです。

少し時間ができた時に教室に行くと、熱心に指導している先生や子どもたちの元気な声や明るい笑顔を見ることができました。これまであまり意識していなかったのですが、子どもたちの姿だけでなく先生の姿にも、以前学級担任をしていたときと同じようにエネルギーをもらっている自分に気が付きました。また、職員室でのやりとりの中に支え合う姿が見られ、このようにつながりが子どもたちにいい影響を与え、学校をよりよくしていく大きな原動力になるのだと感じました。

早く新たな職場環境に慣れ、支えられるだけでなく職場のみなさんを支え、今後もつながりを大切にした職場となるよう職員室の担任として精進します。



できることから…

朝日町立朝日中学校

橋本 憲幸

これまで12年間教育委員会で勤務してきた。久しぶりの学校復帰となり、やっと学校現場に戻れるという喜びと、この12年間の学校現場の変化についていけるのだろうかという不安が入り混じった4月のスタートとなった。始業式・入学式が終わり、子どもたちがいる学校生活が始まると、学校に戻ってきたことを強く実感した。朝、生徒たちとすれ違うたび交わす「おはようございます」の連呼も、新鮮で気持ちよく感じられた。雨天時の渡り廊下の水取りも、生徒の「ありがとうございます」の一声で、さらに頑張ろうと思えた。心の底から『学校っていいなあ』と思えた。

しかし、戸惑いもあった。それは、教頭業務と昨年度までの業務との違いに、なかなか自分自身の意識がついていかないことである。昨年度までは小規模な部署であったため、臨機応変な対応ができたが、朝日中学校には50名近くの職員がおり、何をしても調整が必要になる。先に確認しておけばよいのだが、自分自身にその見通しがなかなかもてない。また、ICT環境は、ここ数年で大きく変貌を遂げており、校務でも授業でも身近なツールになっていた。デジタル教科書を活用する際、教員から「転入生の〇〇がデジタル教科書を見れません」と相談を受けても、どうすればいいのか答えがなく、対応に苦慮することもあった。

その他にも、生徒指導の相談や設備破損の報告など、先生とやりとりすることが多々ある。うまく答えを導けない場合でも、校長先生をはじめ、先生方に温かく支えていただきながら過ごしている。とても感謝している。これから、もっと視野を広げ、経験を積み、教頭として学校や地域、子どもたちや先生方の役に立てるよう、できることを、できる範囲で誠実にやっていこうと思う。



つながりを大切に…

鈴鹿市立神戸中学校

古川 葉子

2年間の主幹教諭を経て、教頭としてこの4月に赴任しました。赴任先が決まった時に、「教頭2人配置だから、いろいろ教えてもらえるし、学ぶこともできるよ」と言われ、不安が大きい中、少し光が射した気がしました。実際、4月を迎えたところ、もう一人の教頭先生に何を聞いていいかわからないことが多く、お互い提出書類の作成やメールの処理、生徒対応に関する職員との情報共有、対応方法の検討、外部の人との打ち合わせなどに追われ、ゆっくり話ができるのは、遅くなってからの日々でした。また、何をしていいのかわからず、自分にできることは何なのだろうと不安に思い、2日目、3日目ぐらいに泣けてきたことを思い出します。

しかし、2か月たち、校長先生やもう一人の教頭先生に助けていただき、職員ともさまざまな話をし、やっと自分らしさを取り戻しつつあります。もちろん生徒の存在は大きいです。毎日、朝の読書の時間、給食、掃除の時間等に生徒とかかかわると、とても力をもらいます。「教頭先生、四葉のクローバー見つけたから、あげる。」と言って、中学1年生の生徒がクローバーいっぱいの中庭で探した四葉をくれます。些細なことですが、とても気持ちが温かくなります。教諭、主幹教諭、教頭と立場は変わりましたが、子どもたちのために、職員とともに協同していく姿勢を大切にしていきたいと思います。



教頭となった 私の最大の課題!

亀山市立神辺小学校

渡邊 彰

掃除時間のチャイムの音に「おや?」となった。どうやらチャイムを水曜日課に切り替えていなかったようだ。プールのシャワー点検にガス業者が突然来校した。どうやらプール使用期間の前後にこちらから連絡をしなければならないところをしておらず、ご厚意で来ていただいたようだ。4月から今日まで、書類と格闘するなかで、自分のミスの影響範囲が今までより広がっていることを認識する日々だった。

しかし、本校の教職員や子どもたちなど、学校全体にプラスの影響を与えることができるのも「教頭」である。職員会議の提案文書に、「全体の動きに無理がないかな?」「〇〇さんといつ打合せをすることになっていますか?」などと担当に確認したり、学校に協力してくださる地域の方と連絡を取り合ったりと、「この小さなことの積み重ねが子どもたちの学校での過ごしやすさにつながる」と思って取り組んでいる。

教頭になって最も難しさを感じるのが、「人を育てる」ということである。(「校務を整理する」ということも得意ではないが…)今、若い教職員が増えている。特にICT分野など、ベテラン勢に負けないスキルを持つ教職員も多くおり、価値観も多様化している状況である。一方で、これまでのように職場に様々な世代がいて教職員としてのノウハウを伝えていくことが難しい状況もある。今後、私の大きな課題のひとつとして、職場の各教職員がもつ経験や特長・工夫を共有し、一人ひとりの授業実践力、対応力、課題解決力を高め、校長の経営方針の具現化につなげたい。

と、ここまでは固くなりましたが、先日、学校の子どもたちや隣の保育園児の前で得意のマジックを披露しました。子どもたちがただ純粋に驚いたり喜んだりするその表情と声に、私のモチベーションも上がります。教職員と子どもとのモチベーションのスパイラルで、さらに楽しい学校づくりに励んでいきます。



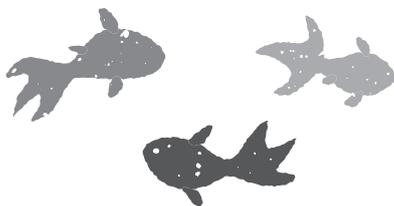
初心を 忘れることなく

津市立村主小学校

成川 佳大

こんな自分で教頭が務まるのか……。そんな不安を抱きながら新任教頭として本校に着任し、気がつけば約2か月が経とうとしています。つい2か月前までは、担任として6年生を送り出し、ほっとしていたのも束の間、次々に来る文書の処理、数々の報告、多方面からの電話・来客対応など生活が一変しました。少しずつ「教頭先生」と呼ばれることや業務に慣れてきたものの、「このまま務まるのか……。」という不安が常につきまとう毎日です。

その反面、「今までの教頭先生がこんなに支えてくれていたんだ。」と教諭のときには気づかなかったこともたくさんあります。特に前任校の教頭先生は、子どもファーストなのはもちろんのこと、職員室では、担任ファーストで考えてくださっていたことを改めて痛感しました。いつも「担任が一番大変やから。」と言っていたのを思い出します。保護者対応や子どもへの指導で困ったときには、真剣に寄り添ってくださいました。先生が働きやすいように支えてくださっていたことが、今、教頭の立場になって改めて感じました。今は、業務に追われ、一日一日をこなしていくことがやっとの状態ですが、わたしが、教頭になろうと志したのは、前任校の教頭先生のようになりたいと考えたからです。職員室の担任として、まずは、先生方の声に耳を傾け、ほんの少しの変化に敏感になり、働き甲斐のある楽しい職場にしていきたいと思っています。そして、何よりも子どもたちが学校って楽しいと思って毎日を過ごせるように、わたしも初心を忘れることなく邁進していきたいと思っています。



『生涯一教師』

～教頭先生になるということ～

津市立雲出小学校

池田 有宏

幼い頃から施設で育った私は、みんなと同じように学び、遊べる学校が大好きでした。「そんな場所を職場にしたい」と教職を目指し、回り道はしましたが、なんとかその夢を叶えることができました。

『生涯一教師』これは学校を舞台にした、とあるマンガの主人公が掲げる座右の銘です。

自分もそうありたいと思い、およそ10年間、一教師として充実した日々を過ごしてきたのですが、4年前から教育委員会で勤務することになりました。

大好きだった学校が職場でなくなり、教師でもなくなった自分に戸惑いを感じ、一時は転職も考えましたが……。『石の上にも3年』とはよく言ったもので、3年目くらいからやりがいや楽しさも感じられるようになりました。今振り返ると、教委にいなければ出会えなかった人との出会いや、より幅広い視点で物事を見られるようになったことなど、多くの学びがあった貴重な4年間でした。

そして今年から教頭として雲出小学校に赴任しました。前述のように学校が大好きだった私は、小1から高3までの担任の先生の顔と名前はスラスラ出てくるのに、当時の教頭先生については全く思い出せませんでした。「教頭先生になる」というのはそういうことなんやろうな、と少し寂しくなりました。しかしふと考えてみると、今まで勤務してきた計7校の教頭先生の話は、はっきり覚えていることに気づきました。大人なのだから当たり前なのかもしれませんが、自分としてはそれこそが「教頭は職員室の担任」と言われている所以なのだろうな、と腑に落ちました。

もう子どもの記憶に私が残ることはないのかもしれないけど、「子どもの記憶に一生残るような素敵なお先生たちが、思う存分働ける職場づくりをするのが私の役割なのだ」と

今は思えるようになりました。また、この学

校の先生たちなら自分のそんな想いを託せる、と頼もしく感じながら教頭としての日々を過ごしています。



とても素敵な 出会いの連鎖

津市立立成小学校

中 林 喜 彦

「立成小学校に赴任することになりました」とこの道を選択するきっかけをいただいた元校長に報告してから2ヶ月がたちました。4月1日には40年近く前に担任していただいた恩師から「新聞見て嬉しくて電話したんやわ。がんばってな」と応援メッセージが届きました。25年前に桑名の中学校に赴任し、1からすべて教えていただいた方から「無理せんように、身体に気をつけて!」と温かいお言葉をいただきました。隣の校長先生からは「どう慣れた?」と慣れるわけではないのに気にして電話していただきました。たくさんの人徳に恵まれた方々との出会いによってここまでこられた教師人生だなとつくづく感じました。

教頭として、校長と共にチーム学校を作っていくと決心したはずだったのですが、数日で夢が砕かれたような感じになりました。保護者対応、生徒指導、事務処理の量の多さ等に圧倒され、職員や子どもたちに関わっていきけるような余裕がありませんでした。その時に、校長から助言していただいたり、前教頭や先輩教頭に教えていただいたりしました。今は、会うと「ビデオ通話で、普通お願いしてこやんやろ」とネタにしてもらえるようにもなりましたが、助けていただいた方々に心から感謝しています。また、私の知らないうちに事務の先生に仕事をしてもらっていることに、後で気がつくことができました。いろいろな方の支えに感謝することばかりの2か月でした。

このように、私は多くの方との出会いと支えによってこれまでやってこられました。職員にとって私との出会いがこのようないい出会いだと思ってもらえるようにしたい、そんな関係を築いていきたいと思っています。そして同じように

思ってもらった教員から子どもたちへと連鎖していくのではないかと思います。



温かさと熱さを 感じながら…

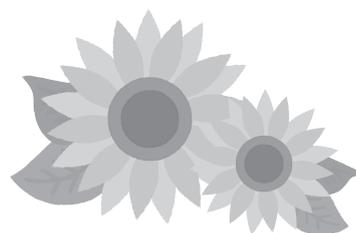
松阪市立嬉野中学校

中 村 太 輔

赴任して2ヶ月。春の温かさが終わり、大好きな夏の暑い日差しを感じる季節となりました。私は4月から、季節だけでなく、勤務校で様々な人の温かさを感じています。「笑顔とあいさつで地域貢献日本一をめざす学校」であり、子どもたちが大きな声であいさつをする姿。地域の方から聞かせてもらおう嬉野の子どもたちを大切にしたいという声。何もわかっていない自分を温かく迎え、教えてくれる教職員。昨年まで現場を離れていたこともあり、様々なことが新鮮で、心地いい日々を送らせてもらっています。

また、久々の現場で感じたことは、教職員の若さです。私は今まで、規模の大きな学校で勤務してきましたが、本校も60人を超える教職員がおり、担任団を中心に平均年齢は若いです。昨年まで、『若手教員の育成が急務』と言っていた市教委の立場から、その現実と直面している今、中堅教員とともにしっかり伝えなければと思っています。といっても、若い先生にはエネルギーがあり、子どもとともに様々なことをより良くしたいと願うパワーを感じています。年齢関係なく、すべての教職員が子どもたちを軸に置き、考え、発言・行動しようとする熱さを日々感じているところです。

昨今、困難な教育課題もある中で、それを先生一人で乗り越える時代ではありません。教職員がチームとなり、元気に先生方が働くことができるよう、対話を大事にし、しっかりとサポートしていきたいと思っています。





時代に即した 「行動派」の教頭に

大台町立日進小学校

山村 裕実

子どもの頃、「教師」というのは頭のいい人になる職業だと思っていた。末っ子で甘えて育ってきた上に、野山を駆け回ってセミとりをしたり、家業の手伝いのためにきょうだいと歌いながら農作業をしたりする、いわば自由奔放な子ども時代を過ごしてきた私にとって、「教師」なんて縁遠い職業であったのだ。そんな私が思いもかけずその職に就き、「頭脳」よりも、「体力」と「運」と「勘」で教師人生を歩んできた。そして今年度、自分でも驚くことに「教頭」という職に就くことになったのである。

4月を迎えるにあたって、ネットや書籍を読み漁った。しかしながら、実際にその日を迎えると、文字で書かれていたことを顧みる暇もなく怒涛のように時間が過ぎて行く。何をしたらよいか分からない。やる事が分かっていてもデータの場所を探すだけに数時間。職員からの質問や相談に対応するのに必死であった。だがその一方で、やりたいことがどんどん見つかっていった。古い書類を捨てたい、行事予定を効率よく管理したい、汚れた壁にペンキを塗りたい……。

日々を過ごすうちに、これまでの3つことが「教頭」という職につながっていることに気付いた。まずは「経験」。私が教師として身に付けてきた教科指導、授業UD、ICT教育、生活指導、職員間での学び合いなどなど……。これらのベースがなければ、先生方への助言や新たな方策を考えることができないということである。2つ目は「縁」。赴任した町には勤務経験があったため、顔見知りの方がたくさんいてくれた。その存在によってとても心強いスタートが切れたことは言うまでもない。3つ目は「私自身」。幼い頃からの生活で培った体力や農作業の経験、得意としてきた工作が、教頭として学校環境を整えることに役立つとは思ってもみなかった。

世間一般の教頭像とはかけ離れた教頭になっ

てしまいそうではあるが、「行動派」の教頭でありたいと思っている。



楽しもう！ つながりを

伊勢市立修道小学校

山田 敏穂

楽しみにしていた子どもの声が聞こえる生活。4月からやっと待ち望んでいた環境で仕事をさせてもらっている。

毎日、子どもたちとたくさん話をし、ときには遊んで……そんな生活を想像していた。しかし、私は今、以前のようなクラス担任ではなく、職員室の担任「教頭」であった。

2カ月がたち、少しほっとした週末。私は、ある夢を見た。業務員に仕事を依頼するが聞いてもらえない。逃げて泣きじゃくるため、体をおさえ、無理やりいうことを聞かそうとする。「大きな声で授業を邪魔してはいけない。」「これは体罰ではないか？」「パワハラ??」そんな言葉が頭をよぎる。またその横の教室では、担任と支援員が口喧嘩をし始め、子どもたちが私に助けを求める。(実際は、気持ちよくたくさん仕事をしてくれます。)

学校は、教員だけでなく、事務職員や業務員、支援員、調理員、SSS、SC等様々なスタッフで支えられている。つつい教員へ目が行きがちであるが、その他の職員へも同等に気を配る必要がある。教頭は、全職員の歯車がスムーズに噛み合うよう、潤滑剤として働きかける役割がある。

今、私にそのことができているのかを自問してみた。日々、大半が書類の対応に追われ、職員一人一人をしっかりと見ていないと感じることもある。しかも、毎日笑顔を忘れ、ひょっとして話しかけるなオーラを醸し出しているかもしれないと……。

本校には、お世話になった先輩や前任校の同僚、自分が若かりし頃、隣のクラスの子どもであった教員や当時、学生で教育実習に来ていた教員もいる。職場の仲間は、私にこんな言葉をかける。「教頭先生、めっちゃ忙しいやろで……

しときます。」「教頭先生がちょっとでも早く帰れるように・・・しときました。』

私はこんな温かで気心の知れた職員集団の中で仕事をさせてもらっている。今は学校長を中心に職場のみなさんに支えられている毎日ではあるが、一日でも早く教頭として自立し、全職員の支えになりたい。そして教頭職を楽しみながら、学校長がめざす「チーム シン修道」を作りたいと思う。



つながり

大紀町立大紀小学校

柴山 昌弘

行政での経験を経て7年ぶりに学校現場に戻ってきました。久しぶりの学校現場、教頭として様々なことに対応していけるのか、大きな不安を抱えながら4月が始まりました。わからない事だらけでしたが、丁寧にご指導して下さる校長先生、前任の教頭先生、自身の校務分掌遂行だけでなく教頭の至らない部分までもフォローしていただける職員、「教頭先生～！」と遠くからでも手を振ってくれるまじめで明るく純朴な50人の子どもたちとともに、毎日「やりがい」を感じながら、一步ずつ進んでいます。

年度当初、今年大切にしていきたいことを3つ、自身で掲げました。

1つ目は、「つながる」ということです。職員、子どもたち、保護者をはじめとする地域の方々と率先してコミュニケーションをとる。また、教頭会や教育振興会等所属する組織内の方々、よりよいつながりを広げていこうと思います。

2つ目は「つなげる」ということです。子ども同士、職員同士、保護者と担任、子どもと地域の方々等、様々な人や物事、気持ちや思いをつなげる、接着剤のような役割をしようと思います。特に来年度、大紀小学校は錦小学校との統合を控え、例年以上に「つなげる」ことが多岐に渡ります。子どもたちが元気に楽しく学べる学習環境の実現に向けて、何年か先を見越したつながりを作っていきたいです。

3つ目は、「つながりを生かす」ということです。自身だけでは何ともできないことだらけです。職員のつながりを生かし、学校全体で取り組んでいきたいです。また、学校内だけでなく、チーム学校として学校と関係機関が一体となって取り組む、また自身の今までのキャリアの中でのつながり等、子どもたちの豊かな教育のために、つながりを最大限生かしていこうと思います。まだまだ未熟ですが、「柴山先生」という名前と呼ばれない立場となった自覚を持ち、日々精進してまいりたいと思います。



初心に戻って

鳥羽市立神島小学校

小久保 廣美

4月にこの職に就き、2度目の神島勤務になりました。「教頭先生」と呼ばれることになかなか慣れず、「はい！」という返事が遅れることも度々、教諭からの仕事の違いに戸惑う毎日を過ごしています。「わからないことは、聞く」「困ったときは、助けを求める」「ピンチはチャンス！」これまで、教室で子どもたちと合言葉にしてきたことを心の中で唱えながら、私の新しいチャレンジが始まりました。

やっと合格した採用試験、なりたくて、なりたくて、やっとなれた教師という仕事。採用された20年前は、まさか自分がこの職に就くとは思いませんでした。生涯一教師を目指していた私が「どうしてこの道を選んだのか…」ということを考える日々が続いています。そんな時、



いつも心に思い浮かぶのは、「出逢い」の素晴らしさを教えてもらった初任の頃の思い出です。

初めて赴任した学校は、松阪の小学校でした。児童数が500人以上もいて、初めて全校児童を前にして話した時には、緊張で手足が震えた記憶があります。子どもたちだけでなく、たくさん素敵な先生方にも出逢いました。「あの先生のようにになりたい！」と憧れる先生が何人もいます。学ばせていただき、育てていただいたこと、あの時の出逢いや、つながりがあるから、がんばれたことがたくさんありました。「感謝」という言葉では伝えきれない、溢れるほど特別な思いがあります。そして、「私の原点」は、そこにあることを実感します。

気が付くと、自分が「中堅」と言われる立場になりました。私は、「自分がしてもらってきたことを返しているのだろうか…。それを次の世代に返すことが、自分がやるべきこと、やりたいことなのでは…」と思うようになりました。

管理職になった今、思い浮かべるのは、今までお世話になった先生方です。「職員は、家族です！」と言ってもらったこと、大人になっても学ぶことの楽しさを教えてもらったこと、やりたいことを応援してもらったこと、これまでのたくさんの「感謝」を私ができるかたちにして、返していけたらと思います。

神島には、「豊かな自然」と「人を思う愛」があります。すてきな出逢いを重ね、職場の先生方や地域の皆さんの幸せが、子どもたちの大きな幸せにつながると信じて、この毎日を楽しんでいきたいと思っています。



新しい景色の中で

志摩市立神明小学校

岩木 愛

教頭として赴任させていただき2ヶ月が過ぎました。15年ぶりに勤務することになった学校には、がむしゃらに取り組んでいたあの頃の思い出があふれており、懐かしさでいっぱいでした。しかし、そんな懐かしさに浸っている暇もなく、目の前の仕事にあたふたする日々が続いています。あわただしい日々の中、職員室から見える新しい景色は、たくさんの学びや周囲への感謝の気持ち、そして自省すべきことがあるということに気づかせてくれました。

学びの一つとして挙げられることは、校務のすべてにたくさんの先生方の力が関わっているということです。教諭の頃には、分掌として把握していたつもりであったことが、現実としてもっと細かに見えるようになりました。ほんの少しの隙間時間を使って、提案文書を作ったり、互いに声を掛け合って行事を企画したりと、チームとして一丸となって取り組む先生方の懸命な姿に、私も学校のために力を尽くしていきたいと自分を奮い立たせることができています。

また、今日の予定すらままならない私に、一から優しく仕事を教えてくださり、ほんの些細なことにも労いと励ましの言葉をくださる校長先生、書類を整理し、いつも細やかな心遣いで助けてくださる事務の先生、わからないときに電話をするといつでも気持ちよく対応してくださる前任の教頭先生。たくさんの先生方の温かい優しさに支えていただき、今こうして仕事に向かうことができることに感謝の毎日です。そして、何より「教頭先生、おはよう！」と笑顔で挨拶をしてくれる子どもたちに元気もらっています。

これからも、時には落ち込んだり、失敗してしまったりすることもあるかもしれませんが、自分らしく、そして、新しい景色から見えた学びや感謝を忘れることなく、がんばっていきたいと思っています。



しごとの速さと 正確さ

伊賀市立霊峰中学校

南 亘

本年度、伊賀市立霊峰中学校の教頭に着任した南と申します。初めての教頭業務に右往左往しながら、日々何とか過ごしているところです。校長先生や同じ職場の教職員、違う学校の教頭先生など、様々な方に助けていただいています。

私は、昨年度まで、県教育委員会の保健体育課に所属していました。自分の担当する仕事はもちろんのこと、それ以外の仕事もたくさんありました。同僚や上席から依頼される仕事はもちろんのこと、自分の担当の仕事を同僚に依頼する場面も多くありました。時には、他課から依頼される仕事もありました。私たちの間で、表現は悪いかも知れませんが「降ってくる仕事」と呼んでいました。

しかし、そんな「降ってくる仕事」を長い間放っておくと、忘れてたり、締め切りに追われたりした結果、遅く不正確な仕事になってしまい、同僚や上席、他課の人たちへ迷惑がかかり信頼を損なうことがあります。なので、私と同僚達は「降ってくる仕事」に最優先で正確に取り組むことを声掛けしあっていました。

そして、4年ぶりに、教頭として学校に戻ってきたとき、驚いたことがあります。先生方に依頼した仕事は、素早く正確に最優先で戻ってくるのです。4年前、教諭として働いていた私とは比べ物になりません。今でも速さと正確さに驚かされます。まだ、教頭になって短い期間ですが、そんな教職員の皆さんを非常に信頼しています。

私も、そんな皆さんを見習い、上がってきた起案や依頼された仕事を、素早く正確に取り組んでいきます。

この文章を読んでいただいている皆様にも助けていただくこともあると思います。今後ともどうか、よろしく願いいたします。



緑に囲まれて 新たな挑戦

名張市立南中学校

白 鷹 久美子

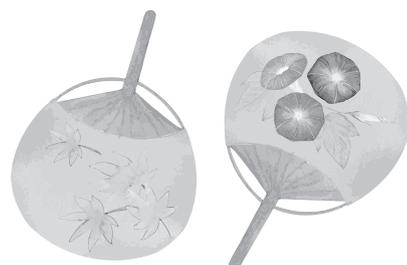
「緑の森にこだまする 希望にもえる歌声は～」と、校歌にあるように、南中学校は緑あふれる山の上に造成された住宅地にあります。グラウンドの奥は緑が生い茂った山、そこから猿や鹿がやってくることもあります。そんな環境の中、生徒たちは落ち着いて学校生活を送っています。

4月に赴任してから、慣れない業務に戸惑いながら、なんとか日々を過ごしてきました。5月に入り、ようやく先生方とゆっくりお話し(雑談)できる余裕が少しだけ出てきました。笑い声があふれる職員室で仕事をさせていただいていることに日々感謝の気持ちでいっぱいです。

教室やグラウンドから聞こえる生徒の笑い声、体育祭で一生懸命頑張る姿と、それを力いっぱい応援しあう姿、夏の大会やコンクールに向けて部活動に取り組む姿に、「学校って楽しいなあ。」と3年間学校を離れていたせい、改めて感じる毎日です。

また、この立場になってみて、自分が教員として気持ちよく勤務できていたのは、管理職の先生方や事務の方、校務員の方、様々な方に支えられていたからだということに気づかされました。

これまでご指導いただいた教頭先生方のように、自分が出るようになるのだろうかと不安な毎日ですが、教えていただいたこと、学んだこと、経験してきたことを返していく番であると思っています。職場の先生方や生徒たち、保護者の皆様、地域の皆様に信頼される教頭を目指して、努力していきたいと思ひます。





一日一日を 大切にしながら

紀北町立赤羽中学校

直江 さゆり

4月—新たな生活がスタートしました。これまで多くの出会いを通して培ってきたことを生かし、新たなステージを、恩返しのような気持ちで頑張ろうと臨んだものの、教頭としての業務に慣れない戸惑いや不安、思うように進められない焦りで、押しつぶされそうな始まりでした。でも、それは長くは続きませんでした。さまざまな立場の方の、温かな思いが支えとなったからです。「一人で抱えんとな」と気遣ってくださった校長先生をはじめ、授業など何事にも意欲的にとりくみ、笑顔あり、元気いっぱいの教職員が創り出す温かな雰囲気の中で、「チーム」で働いている楽しさを感じ、自分もこの「チーム」を大事にし、この笑顔・元気を維持できるよう、頑張っていかなければと強く思える日々へと変わりました。多くの方に支えられているという実感は、本当に頑張れる源です。新年度の始まりがスムーズにいくよう準備してくださった前任の教頭先生、困ったときに自分の時間を割いて丁寧に対応して下さる先輩の先生方や教育委員会の方々、挨拶だけでなく温かな声を掛けて下さる地域の方々、実に多くの人との出会い・つながりによって、今があるとあらためて、感謝の気持ちでいっぱいになります。

だからこそ、これから、学校を、地域を支えていける存在であらねばと思います。校長先生の掲げる安全安心な学校づくりを補佐し、子どもたちにとって、赤羽中学校での3年間の

学びが、将来にわたって有効なものとなるよう、自分の役割を遂行しなければと思います。そして、現場の先生方、職員の皆さんが、いつも、生き生きと、やりがいを持って子どもたちと向き合っている職場づくり、学校づくりのために、一日一日を大切に邁進していくことを目標として頑張ります。どうぞ、よろしくお願いいたします。



後輩への「恩返し」

熊野市立五郷小学校

坂口 直矢

「坂口君よ、あんたなあ、子どもができやんことを、子どものせいにしてないか。何で自分の指導に問題がないか振り返らんのや。9月までは前の担任の指導も残っとるやろけど、11月になってその言い方は、どうや。自分の指導を省みやないかんやろ。」

2006年11月20日の夕方のことです。31才の私は、西山教頭先生に力強い声で叱られました。6年生の子どもたちの漢字テストの成績が良なくて、職員室で「この子ら、全然できやんなあ。」とつぶやいた次の瞬間でした。叱られた時、身体のだ真ん中を、熱い何かで突き抜かれた気がしました。あの感覚は、一生忘れません。今思い出しただけでも、嬉しくて嬉しくて、涙がこぼれてきます。

あの日、叱られたことを胸に、今まで生きてきました。私の人生は大きく変わりました。常に周りのせいにせずに、自分の行動を省みるようにしました。採用人数が極端に少ないことを言い訳にするのを止めたら、2007年、次の年に採用試験に合格しました。そして、努力し続けました。まだまだですが、子どもたちに力をつける授業も、少しはできるようになりました。

そして、今年、自分が教頭になりました。今となっては、お世話になった西山先生に「恩返し」ができません。でも、若い人たちのために、何かできると思います。この4月からの目標は、後輩への「恩返し」です。自分が先輩から教えていただいたこと、周りに助けられて自らが積み上げてきた実践、後輩から気づかされたことなど、自らの経験から得たたくさんのことを、職場で伝えていこうと考えています。それが、西山先生への私からの「恩返し」になると思います。

私は、まだまだ未熟です。これからも、周りから学び、人として成長していけるよう、精一杯努力していきます。そして、熊野の子どもたちの笑顔のために、教職員が一丸となれるよう、教頭として全力で頑張ります。

郡市だより

魅力ある学校づくり ～出会いを通して～

志摩市立東海小学校 井上 雅 嗣

「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」
これは私たち志摩市小中教頭会の研究主題です。志摩市は小学校7校、中学校6校の計13校あり、私たち教頭は日々の業務に追われながらも、13校が連携し、支え合いながら「魅力ある学校づくり」をめざして頑張っています。

東海小学校は2018年に「立神・志島・甲賀・国府・安乗」の5つの小学校が合併し、新しく東海小学校として開校した7年目の学校です。本校では「教師と子ども、子ども同士が触れ合う機会を多く持ち、授業の工夫を行い、校外活動で地域の方々等との出会いを積極的につくっていく」ことで『魅力ある学校』になることをめざしています。

消防士の保護者に協力してもらい、防災講話や煙体験をさせた学年、学校運営協議会の方々の協力を得て、地域の老人会の方々を招いて交流会を行った学年、地元ダンス教室の先生を講師に、思い切り身体を動かし声を出す経験をすることで自己解放をねらった学年、各地域で活躍する方々を招聘し、地域の素晴らしさや夢を追いかけること



の大切さを語ってもらった学年…。先生方の熱意と行動力には本当に頭が下がる思いです。この忙しい中、なぜ先生方がそのような取り組みを実践できるのか。それは「我々職員が楽しんでいる」のだと感じます。

また本校は「小中連携」にも力を入れています。様々な小中連携行事を行っていますが、中でも昨年度、芸術鑑賞の一環で、東海中学校のブラスバンド部に来てもらった演奏会と中学生の職場体験学習を受入れ、3日間小学校で様々な体験をさせた取組は印象的でした。小学校を卒業して2年足らずの子どもたちが、立派になって生き生きと活動する姿に感動し、涙を抑えきれない職員や職員室でいつまでも子どもたちのことを語り合う先生方の姿がありました。職員の方々が「教育に携わる仕事をやってきて良かった。」と改めて感じる事ができた瞬間でもありました。

学力向上、不登校、働き方改革…。まだまだ問題は山積みですが、「教職員が毎日を楽しみ、職員室が魅力ある空間になってこそ！」と、あらためて職員室の仲間に教えてもらう日々です。